

---

# 妄想

しょん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

妄想

### 【Nコード】

N2419BA

### 【作者名】

しゅん

### 【あらすじ】

女子高生篠目洋子の革命。恋愛要素ないです。暗いです。でもおもしろくしたいです。続くか不明です。

## 休み明け

それは特にいつもと変わらない朝だった。

まだ終わらせていない冬休みの宿題の期限が今日でないことに安堵する友人に、お年玉の値段を語るクラスメイト。

冬休み明けの教室にはどこかつかれた空気が漂い、放置された教室のほこりが飛び交い、私はそれを払うように立ち上がり教室の窓を開けた。

冬の、冷たい風がはいりこんだ。

担任の教師が教室に向かってくるのを確認した後ろのドア側の男子生徒から、口々にきたつとささやき、前のドアの開く音が鳴る頃には、さつきまでの喧騒は消え失せ緊張感のある静寂の糸が張られた。

壇上に教師が上がり、淡々と今日の予定を告げ、いつもの長い話が始まる。

教師の視線にあわせるよう熱心に見つめる人、頭を垂れて教師の視線から逃れる人、別のことを考えているのか空を見つめる人、単語帳をバレないように見つめる人。

往々にして私は周りを見渡していた。

そんな中、ふとした瞬間、私に異変が訪れる。

突如催す吐き気。

厳密に言つと吐き気に近いようで異なるものだ。胃からせりあがる物であるが、咳のように勢いよく喉を痛めつけるように吐き出したい衝動にかられたのである。

それは我慢できるものではなく、  
気づいたときには口を押さえて喉から異物を吐き出していた。

げえほげえほど、嘔吐するときの音と激しい咳の音が混ざつたような断末魔の音である。

およそ人が、ましてやうら若い乙女がたてる音ではない。

当然のごとく集まる視線に、長い壇上の話がばつんと断絶され、演説の声色とは打って変わって私の名前を読んだ。

「篠目さん、どうしたんや!」

あ、ただの嘔吐です。

清々しく答えようとした私の考えは、ぱちくり、とひとつしたまばたきによって吹き飛ばされた。

机の上に広がる赤。

机全面ほどの量もないが、その不自然すぎる光景に思考が停止し、そのアンバランスさと奇怪さと赤の美しさに少しの興奮を覚えた。

手から伝わる違和感は視覚よりずっと遅かったが、口の中に広がる鉄の味が私を現実へと引き戻した。

慌てて立ち上がる。

ガタンと鳴った椅子の音がやたらと教室に響き、静かすぎる室内ですべての視線が私に向けられていたことに気づいた。

私を心配そうに伺う担任の教師は、さすが年相応なだけにパニックに陥ることはなく冷静に私の反応を待っていた。それでいてすぐに行動できる準備を構えていたに違いない。

口に左手をあてたまま、私は告げた。

「保健室にいつてきます。」

窓際であった私は、付き添いを求める教師の声を無視し、後ろのドアを開けトイレへと走っていったのだった。

## 休み明け（後書き）

厨二病をこじらせた結果先を見ずに振り回して書き続けます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2419ba/>

---

妄想

2012年1月6日01時45分発行